

# 令和元年度 「特別な教科 道徳」 研究の概要

## 1 研究主題

他者とともによりよく生きようとする児童を育てる  
道徳教育

～考え，議論する道徳の学習を通して～

## 2 主題設定の理由

本校の学校教育目標は「自分の夢を持ち，心豊かでたくましい子どもを育てる～『できる喜び』『分かる楽しさ』を味わえる学校を目指して～」である。また，目指す児童像として，「思いやりのある子」があげられている。優しい心と思いやりのある子どもを育てるために，心の教育を充実させ，相手の立場やよさを認め合えるようにするための指導の工夫が学校経営の重点になっている。そのためには，道徳の時間を充実させ，道徳的価値を理解し，人間理解，他者理解を深め，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが大切であると考えた。また，新学習指導要領では，道徳が教科化され，「特別な教科 道徳」として先行実施され，道徳の授業の質的転換が迫られている。

そこで，「特別な教科 道徳」の研修を通して心の教育を充実させることで，「思いやりのある子」が育つと考え，本研究主題「他者とともによりよく生きようとする児童を育てる道徳教育～考え，議論する道徳の学習を通して～」を設定した。

## 3 研究仮説と手立て

主題にせまる手立てとして，以下の研究仮説を立てて検証していく。

**【研究仮説】** ねらいを明確にし，児童の話し合い活動を充実させることで多様な考え方や感じ方に接し，他者理解を深め，共によりよく生きようとする児童を育てることができるだろう。

<手立て>

- 多面的・多角的に考えることができる教材の活用。
- 話し合い活動が充実する発問の工夫。
- 話し合い活動の持ち方（グループ・全体）の工夫。
- 自己の考えを深めることができるワークシートの工夫。